

# 日本茅葺き文化協会が設立されました。



大会の様子。決して狭い部屋ではないのですが、立ち見が出るほどでした。学生のような若い方、特に女性の参加が多く、世代・性別を超えて興味のある話題であることがわかりました。

六月二十六・二十七日に、一般社団法人として「日本茅葺き文化協会」が設立され、記念事業として、第一回茅葺きフォーラム「茅葺きの暮らしと生業」が、世界遺産に登録されている相倉・菅沼の両集落が所在する富山県南砺市で開催されました。

北は岩手県から、南は鹿児島県までの、茅葺き民家に住まわれている方や、仕事としている職人さん、行政関係者約一五〇人が集まり、参加者が会場からあふれてしまうほどでした。



3 谷口尚・白川村長のご挨拶。社団法人になる以前の「ネットワーク協議会」では、代表を勤められていました。上条集落もご覧になっています。



2 開催地を代表し、田中幹夫・南砺市長より歓迎のご挨拶がありました。



1 安藤邦廣・筑波大学教授が代表理事として就任しました。安藤先生は上条集落もご覧になっています。



5 第2セッションの発表が終わり、座談会をしている1コマ。左は石川代表理事、右は田揚さん、中は京都府美山町北集落で茅葺き業を営んでいる中野誠さん。



4 工学院大学・田揚裕子さんの発表。現在サッカーワールドカップが開催されている南アフリカ共和国での茅葺きという、珍しい内容で、みんな影像を食い入るように見ていました。

二十六日は、開催地から「行政の取り組み」「相倉合掌造り集落」「菅沼合掌造り集落」についての報告が始まり、第一セッション「いろいろを活用しよう」、第二セッション「茅葺きは地場産業になるか」と題し、活動の事例が紹介されました。

第二セッションでは、NPO山梨家並保存会の石

重人代表理事が「根場いやしの里と上条集落の取り組み」と題して、また、甲州民家情報館の設計・建築に深く関わった工学院大学の田揚裕子さんが「南アフリカ共和国の茅葺き業」と題して、それぞれ発表されました。

第二セッション終了後、会場を移して懇親会が開催されました。参加者は「茅葺き」というキーワードを通じて知り合った仲間・知り合いが多く、大変盛り上がりました。

懇親会が終了すると、宿泊地である相倉合掌集落の民宿へ送られ、茅葺きの下で一泊しました。



二日目・六月二十七日は見学会です。

昨日から雨が降り続き、明け方近くには大きな音を立てて降っていました。朝は小降りとなり、ほとんどの参加者が相倉集落に宿泊していたため、早朝から散歩をする姿が見られました。

それぞれ朝食を各民宿で済ませ、八時三十分集合し、相倉合掌集落の見学会が始まりました。



最初に向かったのは、集落のはずれにある「茅場」です。茅場には二階建の茅保管庫もあり、その中には昨年刈った茅が保管されていました。

茅は根分けをして株を増やし、春先には除草作業も行います。除草を行わないと、雑草に茅が「食われて」しまい、順調に生育しないそうです。



茅場見学の後は、集落内にある合掌造り民家を使って整備した資料館の見学を行いました。

続いてバスで移動し、重要文化財岩瀬家住宅の屋根葺き替え現場を見学しました。岩瀬家住宅は桁行十四間半、梁間七間と、旧高野家住宅よりも一回り大きな合掌造り民家です。通常の合掌造り民家は三層（三階建て）ですが、岩瀬家は五層まであります。江戸時代を通じて加賀藩から、火薬の原料となる塩硝を近江から取りまとめ上納する役を務めてきました。

中では、今の当主の方がいりりりで沸かしたお茶を振舞いながら、家の説明をしてくださいました。



葺き替えは、富山県西部

森林組合五箇山支所が世界遺産を含む全ての屋根の葺き替えを請け負っており、各地の屋根の特徴を維持しながらも、均一な作業を行っていると感じました。

同組合では、スキー場を使つての茅の栽培や、独自の茅場からの茅調達も同時に行っています。

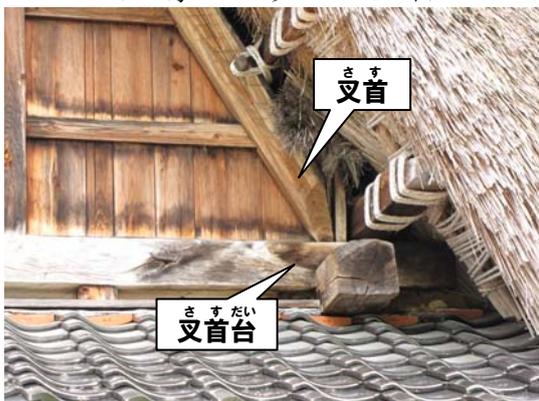


再びバスで移動し、世界遺産を構成する菅沼合掌集落を見学しました。菅沼集落では地元にお住まいの方がボランティアで説明をしており、住民ならではの細かい解説をいただきました。



合掌造りは、柱や桁、梁で構成される軸組部（下半分・一階の生活空間にあたる）と、又首台から上の小屋組部（上半分・屋根にあたる）が、構造的にも空間的にも完全に分離しているところに特徴があります。それは、軸組部は大工の仕事で、その他は小屋組部も含めて住民の伝統的な互助制度「ユイ」の仕事と、明確に役割分担されているためです。

下の写真は、又首台に鉛筆のように先端を削った又首を差している様子です。このような構造で得られた広い屋根内部は、甲州民家と同じように養蚕のための作業場として使われていました。



又首

又首台